

研究区分	教員特別研究推進 独創・先進的研究
------	-------------------

研究テーマ	SDGsの実現に向けた予算編成：国際援助機関におけるジェンダー予算について				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	森 勇治
	研究分担者	所属・職名	経営情報学部・客員教授 エセックス大学・教授	氏名	Uddin, Shahzad
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	森 勇治

講演題目	公的組織における少数派への配慮はいかに行われているのか
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本研究はいわゆる「ジェンダー」研究ではない。「誰も置き去りにしない」という崇高な理想が実現すれば、少数派（マイノリティ）は不利益を被ることないだろう。このようなスローガンあるということは、それが実現できていないのだろう。そこは個とルールを尊重せず、議論と異論を好まない組織と社会であろう。それは何故か。どのように改善すべきか。この検討には社会・組織、それを支えるガバナンスとアカウンタビリティを批判的に捉え直すことが不可欠だ。なお本研究は「批判会計学」ではなく、「クリティカルアカウンティング」に基づく学術研究である。</p> <p>&lt;研究目的&gt;</p> <p>SDGsの目的に「ジェンダー平等」が掲げられているが、それは発展途上国だけの問題はなく、先進国日本においても依然として重要な課題として残されている。ジェンダー平等化に遅れる国が、他国のジェンダー問題の解決をどのように支援しているのかという課題について、実証的にアプローチする。Uddin, Mori, Adhikari (2019) では公的な意思決定の代表として公的組織の予算編成に注目したが、さらに実施についても取り上げることにはしたい。</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>① Public Sustainability in Japan, Workshop, 14. Dec. 2022. University of Economics and Business, Vietnam National University, Hanoi, Hanoi, Vietnam</p> <p>② The Possibilities and Limitations of Diversity in Management Accounting: Implications from Japanese Public Accounting Research, Brown Bag Seminar, 03. Nov. 2022. University of Gadjah Mada, Yogyakarta, Indonesia.</p> <p>&lt;今後の展望&gt;</p> <p>2022年度については、現地のケーススタディ対象地域の関係者、政府高官、国際機関、コンサルタント、日本国内外の研究者、日本の女性会館運営者等に対してインタビューを行った。</p> <p>2023年についてはインタビュー数を重ね、理論研究を進めることに、研究協力者等と合意している。初期段階のインタビューでは、いくつものパラドクスを見出すことができた。その点を整合的に説明する理論構築を行う。そして中間報告としてAPMAA等の内外の学会で報告を行い、幅広いフィードバックを得ることで研究を改良し、早期に投稿を目指す。</p>